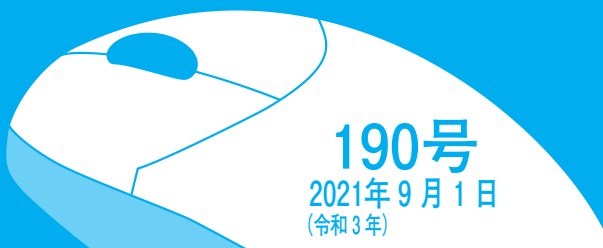


徳島ペンクラブ通信

1967年(昭和42年)創立



発行
徳島ペンクラブ
徳島市東沖洲2丁目1-13
徳島県教育印刷(株)内
TEL 088-664-6776

190号

2021年9月1日
(令和3年)

大賞に塩田節子さん「私のからだ」

第22回 とくしま随筆大賞

徳島新聞社賞 静 春樹さん 「活字で救えた二つの命」



静 春樹さん



塩田節子さん

第22回とくしま随筆大賞(徳島ペンクラブ、徳島新聞社主催)の審査が7、8月の2回にわたってあり、大賞に塩田節子さん(75)「徳島市八万町」の「私のからだ」が選ばれました。また今回から新設された徳島新聞社賞には静春樹さん(61)「吉野川市鴨島町」の「活字で救えた二つの命」を選びました。

今回から徳島新聞社が主催に加わったこともあって、応募者数は昨年の53編から71編と大幅に増加。一次選考委員6人(鈴木綾子、西池冬扇、山口久雄、船越淑子、辻本一英、石川文彦)による審査の結果、12編を本審査に推薦。本審査は依岡隆児(徳島大学総合科学部教授)、柏木康浩(徳島新聞生活文化部担当部長)、丁山俊彦(徳島ペンクラブ会長)、竹内菊世(阿波の歴史を小説にする会会長)の4選考委員により行われ、大賞、徳島新聞社賞のほか、優秀賞3人、奨励賞2人を決めました。

大賞に選ばれた塩田さんの「私のからだ」は、若い時に病棟で出会った青年が亡くなり、その死を機に、これからはどんなことがあっても前を向いて生きようと思うようになります。自身は何度も手術をする羽目になりますが、彼が残した言葉

「幸せを感じた時にはそのおつりを世の中に返したい」を実践していこうと考えます。そんな気持ちを描き、読んでいて引き付けられます。

徳島新聞社賞の「活字で救えた二つの命」は中学時代に何度もトラブルに遭遇しますが、いつも自分を助けてくれるK君がいました。小さなころ、交通遺児宛に手紙を書いたことがあり、その手紙は届けられたとは聞いていましたが、相手はK君だったのです。あの手紙がK君母子の心の支えになっていた、と分かるのです。

その他の受賞者は次の皆さん。

●優秀賞

「おはなはんと私」相馬千賀さん(千葉県、徳島市出身)

「めぐり逢い」湯浅恒子さん(徳島市)

「蚯蚓(みみず)の自殺」栗谷健さん(藍住町)

●奨励賞

「コロナ禍のキャンパスライフ」大本泉さん(阿波市)

「人生が変わった瞬間」井村恵理さん(徳島市)

表彰式は徳島新聞社で

随筆大賞の表彰式は9月12日、ホテルグランドパレスで行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染者拡大のため場所を徳島新聞社1階会議室に変更し午前10時から開催することに決まりました。会食などはありません。(2面に関連記事)

第23回 県民文化祭分野別フェスティバル

徳島の未来の文芸を考える

短詩型文芸の

県内リーダー パネル討論

10月16日 PM 1時30分～
(シビックセンター)

徳島県民文化祭の主催事業として徳島ペンクラブが取り組んでいる第23回分野別フェスティバルは、10月16日午後1時半から同3時20分まで徳島市のシビックセンター4階さくらホールで「徳島の未来の文芸を考える」(短詩型文芸について)をテーマにシンポジウム、パネル討論会を開催します。

少子高齢化で県内各地で過疎化が進み、活字離れも年々顕著になっていきます。こんな中、地域社会の文芸に対する関心は徐々に薄れていっています。それに加えてコロナ禍により社会の絆の脆弱化がだんだん加速しているのが現状です。特に人間の絆を活動の拠り所としている短詩型文芸にとっては、深刻な状況といえます。

地域で短詩型文芸の活動の先頭に立って頑張っておられる人たちに現状と未来への展望を語っていただき、地域活動の活性化につながるシンポジウムにしたいと思います。企画を推進してきた西池冬扇副会長が司会、パネリストは県内の短歌や俳句、連句、川柳の組織のリーダーを予定しており、会場の人との質疑討議も予定しています。

ペンクラブ賞表彰式

9月18日の役員会で

5月に予定されていた令和3年度徳島ペンクラブ総会が新型コロナウイルス禍のために中止されたことにより、西池冬扇副会長による講演(テーマは「自然観」生命観)ついでに俳句の「宇宙観」は、中止されることになりました。第22回とくしま随筆大賞の表彰式後、同じ会場で行う予定でしたが、随筆大賞表彰式が徳島新聞社で開催されることになったためです。またまた新型コロナウイルス感染者の急増により中止のやむなきに至りました。残念です。

また徳島ペンクラブ賞表彰式も随筆大賞表彰式に合わせで行う予定でしたが、これについては9月18日に徳島市の文学書道館で開く9月度役員会の席上、受賞者においていただき表彰することに決まりました。

こども新聞に俳句欄

今月からの掲載決定

徳島ペンクラブでは9月からこども俳句教育事務局を設置し、徳島新聞社が毎週火曜日、教育支援の一環として、県内の希望する小中学校を通じて児童生徒に無料配布している「阿波っ子タイムズ」に月1回、こども俳句欄を掲載することが決まりました。

選者は、県内主要俳句結社などをお願いする予定です。応募方法など詳細は「阿波っ子タイムズ」紙面に掲載されます。ぜひ皆様の周囲にいる子供たちに呼び掛け、投句を勧めてください。

ペンクラブ選集 Part 39 作品提出お急ぎください

○募集作品

例年のように随筆や評論、短編小説などの散文、俳句や短歌、川柳、連句、現代詩の韻文を一般作品として募集するほか、今年の特集として「とくしま水辺の物語」をテーマにした作品を募集しています。

徳島には「四国次郎」または「四国三郎」とも呼ばれる吉野川に代表される大きな河川があり、海辺にも恵まれていますが、水辺が織りなす風景に心が癒やされるのではないのでしょうか。また戦前は水運が盛んで、人や物の運搬に大活躍していました。そういう時代に思いをはせるのもいいでしょう。作品には見出しと水辺の場所も明記ください。

また会員アンケートとして昨年は「私の好きな花」をテーマに短文を募集しましたが、今年は文字数を2000字に増やし「最後に食べたいもの」について募集しています。

○掲載負担金

一般作品 見開き2ページ(2000字程度)7000円。追加は2ページごとに4000円。写真やイラストを載せる場合は、その分、文章を短くしてください。

特集作品「とくしま水辺の物語」 1ページにカラー写真1枚と文章4000字で3000円。追加は1ページ増えるごとに2000円。後日会計から送付される郵便振替などで送付をお願いします。

アンケート「最後に食べたいもの」は掲載料不要です。

○締め切り 各作品とも9月末日

○送付先 〒771-1231

板野郡藍住町富吉字須崎54 石川文彦宛
メールアドレス Ishikawa_0731@yahoo.co.jp

○お問い合わせ

石川文彦(携帯) 090-17624-0749



私は、地元海部小学校で、絵本の読み聞かせのボランティアをしています。

う、十年以上続けている。きっかけは、いとこの由紀ちゃんだった。私は、三十歳で精神科の病気になる自宅療養が続けていた。家にこもってばかりいた私に、私にも地域のためにできることがある。ボランティアをしてみないかと、私を連れだしたのである。

初めは、図書館で、絵本の読み聞かせのボランティアに参加した。そのボランティアの代表者に勧められて、小学校で読み聞かせをすることになった。活動を、小学校でさせてもらえないかと、校長先生に私が交渉に行った。週に一度、毎週木曜日の朝、十五分間である。私は、仲間を集めて「読み聞かせ隊」として、このボランティア活動を始めた。病気で何もできないと、すっかり自信を無くしていた私は、

私のライフワーク

地域に貢献できることに、喜びを感じた。絵本は、図書館から借りてくる。どんな本を読むかは、私たちが任されている。どんな本が子供たちに喜んでもらえるか、本を選ぶのには、かなり気を使う。キラキラと目を輝かせ、真剣にお話を聞いてくれる子供たち。私は、子供たちの成長の一部にかかわることができている。生きがいとなった。そしてそれは、私のライフワークとなった。小学一年生で読み聞かせをした生徒も、もう高校生になっている。町で会うと、挨拶してくれる。私の読み聞かせを聞いて、こんなに成長したのかと思うと、嬉しくなる。気力の続く限り、続けていきたいボランティアである。

長年続いた読み聞かせも、昨年はコロナ禍で学校が休校となり、学校が再開されても、三密を避けるということ、結局、一年間、ずっと活動を休止していた。今年になって、距離を取りながら、試行錯誤の上の読み聞かせ再開となった。地域に貢献していることを、誇りに感じながら、楽しんで続けてきた。私の、大事なライフワークである。(宮繁美知子)

「秋の文学散歩」参加者募集!

—コロナ禍 秋の文学旅行自粛—

春の文学散歩は雨天で中止、また秋の文学旅行も自粛ということになり、会員の皆さんからぜひ文学散歩を実施してほしいとの要望が多数寄せられました。そこで春に中止した文学散歩を新たに「秋の文学散歩」として計画いたしました。

晩秋の澄んだ空のもと、鳴門の地に語り継がれてきた伝承、この地で育まれた伝統の技や美に心を寄せてみませんか。皆様のご参加をお待ちしています。

開催日 10月27日(水)

集合時間 午後1時

集合場所 阿波神社(鳴門市大麻町大谷) 駐車場

コース 阿波神社—東林院—宇志比古神社—森陶器—福壽醤油—松浦酒造—阿波神社(解散)

※東林院境内に「ろうそく夜」という喫茶店があり、休憩を予定しています。お店は不定休で予約ができません。開店していれば幸運だと思ってください。閉店の場合もありますので、予め飲料・おやつなどをご用意ください。

申し込み 参加を希望される方は開催日の3日前までに電話連絡してください。

連絡先 丁山俊彦 ☎090 4508 0538

ほんの散歩道

出版された方は、ご連絡下さい



モラエス会創立85周年を記念しW・デ・モラエス著『茶の湯』を深沢暁・元天理大学教授の翻訳で出版しました。初版本は1905年、モラエスが神戸で出版をいたしました。それが唯一、日本で出版された著作物です。本文中、カラー印刷されている挿絵は復刻したものです。

●A5判 60頁 定価1100円(税込み)。
●発行者 丁山俊彦 発行所 NPO法人モラエス会

山本枝里子さんは、当初みんなが驚くような巧みな歌が作れたら、と夢想していました。ところが最近正直に真実を書こうと思うように。そんな山本さんの第3歌集。2021年5月出版。195頁。



おめでとうございま

東條士郎さん

「第35回国民文化祭」連句部門で文部科学大臣賞に選ばれました。作品名「グラデーション」。

会員短信

東條士郎さん

7月4日に行われた「第24回徳島大空襲を語るつどい」(反核・憲法フォーラム徳島主催)で、徳島大空襲体験の語り部として講師を務められました。臨場感あふれるお話に50人余の聴衆が聞き入っていました。

竹内紘子さん

徳島少年少女合唱団の「第25回眉山ドイツ兵墓 鎮魂祭」のパンフレットに小品「忘れられた墓」を書き下ろしました。鎮魂と平和への祈りが込められた「徳島ミサ」の合唱の場面は圧巻です。

辻本一英さん

徳島市国府町で箱まわし伝承館・阿波木偶文化資料館の整備に取り組んでいます。市民手作りのミュージアムとして、来春3月3日(水平社宣言100年)にオープンの予定。現在、県内外支援者からの寄付を募っています(お問い合わせは辻本さんまで)。

その他

野上彰展(野上彰の会 竹内菊世会長 主催)

7月29日～8月1日まで徳島市の丁字堂ギャラリーにて野上彰展「オリソニック」の詩人「が開かれました。

後記

昨年に続きコロナ禍でペンクラブの活動も中止や延期が続いています。もうそろそろ終息してほしいものです。